

# 学校図書館支援センター通信 NO.126 10月号

平成30年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

## 4年目教諭対象 授業力アップ研修 ～学校図書館活用を学ぶ～

学校図書館の活用した授業力アップ研修は、今年で3年目を迎えます。この研修は、授業力の向上をねらいとして、4年目教諭を対象に行います。先輩の先生の学校図書館を活用した授業を参観させていただいた後、4年目の先生方が、自身の学校で学校図書館を活用した授業実践をするという研修となっています。

今年度は、中学校2校、小学校2校の協力を得て、学校図書館を活用した授業参観を行いました。10月号では、中学校で行われた授業参観の様子をご紹介します。

### 【9月18日（火） 市川市立第一中学校】

美術科 第1学年「生き生きと描く（切り絵）」 授業者 佐藤 三登里先生



第一中学校では、美術で制作した切り絵を校外学習のしおりの表紙に飾ります。

今回はマザー牧場へ出かけるので、動植物をテーマにしました。動植物を生き生きと描くために、動きのある写真が載っている写真集を中心に図書資料を集めました。図書資料を使って、生徒たちはイメージを広げていきました。

「生き生き」という言葉のイメージを、図書資料の写真や絵を使って広げていくことで、一人一人の生徒が、ねらいを明確にすることができ、主体的に取り組むことができました。



図書資料の説明をする学校司書

#### 【4年目教諭の感想】

- ・目的意識がはっきりしないまま図書資料を用いても効果が半減してしまうと、今日の授業を拝見して感じました。
- ・図書活用することで、学びが広がるように感じました。
- ・学校図書館（図書資料）活用の必然性を感じました。教科の特性があるとは思いますが、いかに自然に手段として活用できるか、見通しをもった計画・授業のデザインをしていきたいです。

### 【9月21日（金） 市川市立下貝塚中学校】

理科 第3学年 生命のつながり「遺伝子を扱う技術について調べよう」 授業者 岡本 由季子先生

今回は、大単元「生命のつながり」の終章として設定された発展学習において学校図書館を活用した授業を行いました。「遺伝子を扱う技術をどのように利用していけばよいか。」というテーマで、遺伝子組み換え食品・クローン動物・遺伝子検査の3つから、一つを選び自分の意見を考えていきます。自分の考えの根拠となるのが、図書資料を使って調べた情報です。調べてわかった情報をもとに、グループごとに考えを交流して、最後に班ごとに発表を行っていました。



協議会では、情報カードの使い方の紹介や学校図書館を活用する場面（導入・展開・終末）によって、活用の方法が変わってくるなどについても教えていただきました。

#### 【4年目教諭の感想】

- ・見通しを持って単元を進めていく必要があると感じました。あらかじめどのような本がネットワーク便を活用して集まりそうかイメージを持っておくべきだと思いました。
- ・担当の先生と学校司書の先生の連携ができていると感じました。
- ・生徒の実態に合わせて、わかりやすい資料、調べる力のある生徒には専門性の深まる資料が、そろえてあり、どの生徒も意欲的に取り組むことができていると感じました。

子供達は身近な先生方が紹介する本に驚くほどの興味を示します。富美浜小では春の読書週間に、先生方のお薦め本を掲示しています。思いが込められた選書や工夫された紹介文は、子供達の心に響きます。日常の活動でも「ブックトーク」や「アニメーション」を行っています。子供達が本の世界を楽しみ、読む力を引き出すためには、もっと工夫が必要だと考えさせられます。

今年は創立40周年。40年前の教科書と人気のあった本の展示など、特別な秋の読書月間にしたいと図書委員がはりきっています。（市川市立富美浜小学校 学校司書 藤本 正江）



## 中学3年 家庭科 保育「幼児との関わりを考えよう」 ～読み聞かせのポイントを学校司書から学ぼう～

10月1日（月）、市川市立南行徳中学校で行われた第3学年の家庭科の授業を参観しました。

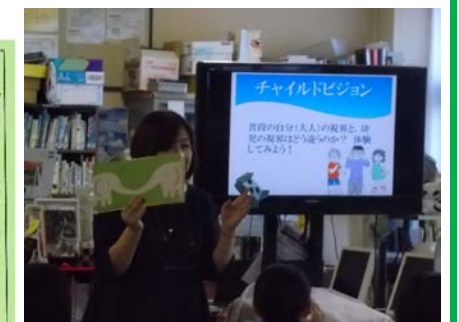
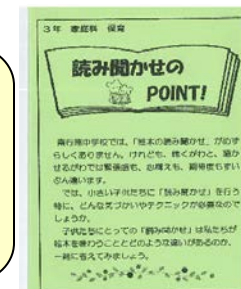
家族と幼児の関わりや幼児期の成長について学習をしてきた生徒たちは、近くの幼稚園へ保育実習に行きます。授業者 菊地陽子先生から、幼児とのふれあい方について説明がありました。幼児と触れ合う方法として、外遊びや折り紙遊び、読み聞かせなどがあげられました。その中でも、今回は、読み聞かせに着目して、生徒たちが「幼児とのふれあい方」を考えていくことをねらいとした授業が展開されていました。

読み聞かせのポイントについてまとめた自作の冊子を用いて、学校司書 北井恵子さんが話をしました。はじめに、読み聞かせの持つ力について「クラシュラの奇跡」（ドロシーバトラー著）の本を紹介しながら、お話をしてくださいました。幼児の視野は、自分たちの視野よりも狭いということを実感してもらうために、「チャイルドビジョン※」を使用して、お互いに読み聞かせを行いました。

実際に体験をすることで、幼児の視線を意識することの大切さに気が付くことができると思います。



※チャイルドビジョン  
幼児の視界を体験できるめがねです。  
幼児の視野が狭いことを知ることで、安全に対する意識も高くなります。



『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。  
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）  
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4  
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352  
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

